

進化経済学会ニューズレター No. 5
Oct. 1998

進化経済学会事務局

606-8317 京都市左京区吉田本町 京都大学経済学部 気付

URL <http://www.econ.kyoto-u.ac.jp/societies/evolution>

tel: 075-753-3427/3455 fax: 075-753-3492 e-mail: yagi@econ.kyoto-u.ac.jp

郵便振替口座：01030-1-22493 (進化経済学会)



第4回理事会報告

大阪大会採択研究報告タイトル

国際シンポジウム学会見聞記

『進化経済学とは何か』刊行・配布のおしらせ

第4回入会審査者名簿

9月12日に大阪市立大学の会員のお世話で、恒例になったオータム・コンファレンス（今回は「アジア金融危機から経済学は何を学ぶか」がテーマ）と第4回の理事会がおこなわれました。コンファレンスでは、不満はあっても新古典派的枠組みを採用せざるをえないという木村福成氏、地域の人間社会と経済の関連からアプローチする末広昭氏、大蔵省や国際機関での経験にふまえて論じられる白鳥正喜氏の3者3様の議論にコメンテーターやフロアの会員の発言が加わり白熱しました。金融・資本市場の自由化にさいしての失敗についての認識は共通する面がありましたが、その理論的把握や、政策打開の方向ではなお大きな意見の相違があります。来年3月26（金）－27（土）日の大阪大会（会場：大阪市立大学学術情報センター）の準備もすすんでいます。企画セッションとしては、アジア金融危機論の継続討論、若手会員を中心にした「いまなぜ進化経済学か」、教科書づくりの展望、チュートリアル・セッション「創発性科学における制度知識の変化」などの実施が検討されています。詳細は、来年新春にお届けするプログラムをごらんください。

第4回理事会報告

第1期役員第4回の理事会は、9月12日の11時から午後1時まで、大阪市立大学文化交流センターで開催されました。(参加者は、会長1名、出席理事11名でしたが、書面で議長委任をされた理事が9名です。)審議および報告された事項を以下紹介します。

1. 入会希望者審査

1998年3月29日以降の入会申込者に、および事務局の不手際で前の理事会で審査できなかった若干名を加えた22名を審査・承認した。また、大会での報告者を含め、まだ入会手続きをとっていない人たちに入会手続きをとらせ今年度からの会員として扱い、次回の理事会で事後的ながら審査・承認することにした。

2. 役員選挙細則案審議

前回報告案の修正について審議、会長候補の信任投票は最高裁判事的方式でおこなう、副会長候補推薦は理事会でおこなうこと、理事候補推薦は15名(定員半数)以内、初回の選挙時の会長候補についても理事会で推薦することとして、次回理事会で細則条文を確定し、また、会長・副会長・理事候補の推薦ができるよう準備することとなった。

3. 1997年度決算案と監査報告について

今年度総会に提出する決算案と監査報告を確認した。

4. 出版活動について

10月に設立大会の外国人学者講演とパネル、また1996年秋のコンファレンス報告をもとにした出版、進化経済学会編『進化経済学とはなにか』が有斐閣から刊行される。学会はこれを600部買取り、1996年度1997年度入会者には無料配布するが、1998年度入会者については無料配布できるかどうかは財政状態によるという説明が事務局からあった。

5. 1998年度大会について

会員から申し込みのあった27報告を採択した。大会の企画セッションとしては、オータム・セッションでとりあげた「アジア金融危機から経済学はなにを学ぶか」の継続セッションも含め、いくつかの企画が検討されていると大会実行委員会から説明があり了承された。

6. 1999年度大会および2000年度大会について

2000年春に開催する第4回大会は、有賀裕二、浅田統一郎理事で実行委員会を組織して、東京(中央大学)でおこなう。その次は、九州地方部会と岡村東洋光理事を中心にして九州で開催する方向となった。

(事務局：八木紀一郎)

採択された会員研究報告

永友哲彰(研究生)、近藤未記絵、西山賢一：
埼玉大学大学経済学部

「GAによる社会組織の進化シミュレーション」

山本英司：京都大学大学院経済学研究科博士後期課程

「進化経済学の発展のために—経済思想史的展望—」

篠原修二：神戸大学大学院自然科学研究科博士後期課程

「販売可能性を媒介にした商品需要と貨幣の生成崩壊モデル」

菅原進：電気通信大学大学院

「不確実性に対する行動としての流動性選好と金融の情報ネットワーク化」

谷口和久：大阪産業大学経済学部

「Lowe's Traverse and Variability in the Degree of Capacity Utilization」

佐久間美明：三重大学生物資源学部

「自生的漁業管理制度の進化経済学的考察：漁業技術の進展と組織的対応」

宮森虔児：桜美林大学

「<システム転換>解明のための進化経済学の構築にむけて」

香村由紀／木村良晴：アネルバ（株）／京都工芸繊維大学

「市場の成立と崩壊のプラズマモデルと等角写像モデル；取引による市場成立プロセス、地域市場の座標変換、地域取引コストと流体力学」

島広樹：慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科修士課程

「情報流通ダイナミズムのマルチエージェント型シミュレーション」

久場嬉子：東京学芸大学教育学部

「“合理的選択”に関するフェミニスト・クリティーク；“Caring”の制度経済学試論」

大黒弘慈：龍谷大学経済学部

「貨幣と信用；進化と階層性」

山森亮：京都大学大学院経済学研究科博士後期課程

「再分配と承認；福祉国家の政治経済学と規範理論」

徳丸宜穂：京都大学大学院経済学研究科博士後期課程

「進化論的分業論に向けて；分業構造の経路依存性について」

小山友介：京都大学大学院経済研究科博士後期課程

「仮想コンビニでの商品間競争過程」

清水和己：早稲田大学政治経済学部

「経済の再生産装置を巡って；FR.ペルーの＜骨格形成ダイナミクス＞」

吉地望：北海道大学経済学研究科博士後期課程

「数量化できない不確実性の下での期待形成の考察；為替相場決定における期待形成を通して」

中島義裕：神戸大学自然科学研究科研究生

「経済現象とフラクタル構造」

丹沢安治：専修大学経営学部

「制度に対する進化論的アプローチと新制度派経済学の統合」

稲葉紀久雄／椿本祐弘：大阪経済大学／大和総研

「制度進化の視点から見た上下水道事業民営化論の一考察；民営化の限界を超克するために」

野崎道哉：岩手県立大学総合政策学部

「開放経済下における完全雇用と価格安定性；ポストケインズ派開放マクロ動学による一考察」

西山賢一：埼玉大学経済学部

「経済は持続可能か；自然資本の理論」

貞岡久里：神戸大学自然科学研究科知能科学自然知能

「内部観察によるシステムの組織化；連想シトリトリによる実験」

大室悦賀：法政大学大学院社会科学研究科／東京都府中市役所

「多重存在の人間像から見える経済学の回帰；第3セクターの存在から」

山根卓二：京都大学大学院経済学研究科

「倫理的行動の正当化——センの＜コミットメント＞のプラグマティズム的解釈——」

出口弘：京都大学経済学部

「経済システムのルールベースダイナミクス解析」

有賀裕二：中央大学商学部

「ヒルデンプラント需要集計問題の日本経済における検証（仮題）」

有賀裕二／小田秀典／瀧澤弘和／川越敏司；

中央大学商学部／京都産業大学経済学部／東洋大学経済学部／埼玉大学経済学部

「レーマーモデルを基調とした経済進化の研究（仮題）」

国際シュンペーター学会 ウィーン大会見聞記

国際シュンペーター学会 (International Schumpeter Society : ISS) が 6 月 13 日から 16 日にわたってウィーンで行われた。ISS はその名の通り、シュンペーターの遺志を継ぐ、技術開発の現場の実証研究・競争プロセスの研究などの発表が多いのが特徴である。また ISS は Journal of Evolutionary Economics を発行しており、最近では計算機シミュレーションによる研究結果が多数収録されている。

今回の学会のサブタイトルは“Capitalism and Democracy in the 21st Century”であった。だが、影のサブタイトルとして学会を支配していたのは、「限定合理性 (bounded

rationality)」であったといっていいただろう。ネルソン、ウィリアムソンによる招待講演でも、“Bounded Rationality”についての言及があったが、それだけではなく、数多くのセッションで実証分析と言う形で“bounded rationality”への接近が行われていた。

“Bounded Rationality”への接近方法は三種類であったと思われる。一つは Rubinstein の“Modeling Bounded Rationality”(1997)等にみられる、選好関係・行動関数を明確に(論理式等を用いて)定義してゆくタイプである。もう一つは、ISS で行われていたような実際の現場でどのように対処しているかを実証的に検証するタイプである。もう一つが計算機によるシミュレーションである(私が行った発表もこの分類に入る)。計算機によるシミュレーションも、第二世代に入り、アクセルロッドの繰り返し囚人のジレンマトーナメントの頃と比べてより複雑なモデルが増えてきている。

私は技術開発に関する実証研究の発表を聞いたのだが、その際に頻りに耳にしたのは、“Cognitive Process”や“Psychological Process”と言う認知心理学議りの言葉であった。複雑な現象を「個人」がどう認識し、どのようにして新発見が生まれるかと言うテーマにこの言葉は用いられていた。それ以上に興味深かったのは、グループによる研究者相互のコミュニケーションに関する研究にこの言葉が用いられていたことである。すなわち、現場の研究者は自分へと割り当てられた目標達成及び研究チームのメンバーとのコミュニ

ケーション・協力という二種類の限定合理性に同時対処していることになる。発表では、組織としてこの負担をどのように減らしているかといった視点からの研究が幾つか見受けられた。

個人的な私見であるが、今後、これらの3つの視点を統合した研究が増えてくるだろう。実際の実証分析・実験などから行動のヒューリスティックをアルゴリズム化し、相互作用を計算機シミュレーションで解析するという手法である。

Axelrod は最近の著書である“The Complexity of Corporation”のなかでシミュレーションは“KISS(Keep it simple and stupid)”であるべきであると述べているが、彼自身のシミュレーションはあまりにもこの原則に徹しすぎており、各行動主体の行動原理に実際への擦り寄せも、なぜそのような行動原理を採用するかの正当化もない。そのため、言葉は悪いが「自然科学者の書いた社会に関するエッセイ」のような分析しかできていない。

人間行動に関する研究蓄積は社会心理学・マーケティング・実験心理学等に豊富に存在している。これらを使いこなし、より現実的な視点からモデリング及び分析を行うという、一種の“Positive Science”の方向に、経済学の一つの可能性があるのではないだろうか。シユンペーターゆかりの地ウィーンで浮かんだ一つの「夢」である。

(表紙写真提供も：小山友介)

会費納入をお願いします：

3月の第3回理事会、および9月の第4回理事会で入会審査をすまされた方は、1998年度からの会員として扱います。これからの入会者は、原則1999年度からの会員となります。

納入先：郵便振替口座：01030-1-22493 進化経済学会

会費：個人会員年額10,000円(大学院生、ODは半額)。

会費納入確認や、領収証が必要な方は事務局にご照会・ご請求ください。

宛名ラベルの住所・氏名をご確認ください：

来年度は選挙がありますので、会員名簿を整備します。住所・氏名の確認のほか、所属変更などがあれば、必ず事務局にご連絡ください。

『進化経済学とは何か』：有斐閣から刊行

1996 年秋の学会設立準備委員会主催の学術討論会と翌春の設立大会でのパネル討論および招待学者講演をもとにした出版『進化経済学とは何か』が有斐閣から刊行されました。本学会の最初の出版物です。これは、学会の機関誌に準じる出版物ですので、1997 年度会費を払っていただいた会員には、出版社からこのニューズレターをはさみこんで配送します。(今春・今秋の理事会で今年度入会の審査を済ませた入会申込者の方にも 1998 年度会費の入金が確認できている方には送付します。) 届くのがニューズレターのみの方は、会費支払い状況をご確認ください。会費払込を確認次第、学会事務局から書籍をお送りします。なお、本書は市販もされていますので、図書館など校費での購入などもご検討ください。

進化経済学会編 『進化経済学とは何か』有斐閣、定価 2400 円

序：瀬地山敏／進化的経済理論の観点：リチャード・ネルソン／経済学とダーウィニズム：ウルリッヒ・ウィット／経路依存性と協力・競争：児玉文雄／経済システムにおけるノイズの役割：池上高志／倫理と進化：内井惣七／進化とゲーム：岡田章／進化経済学への学問的遺産：八木紀一郎／複雑系と進化：塩沢由典／進化ゲームの評価：有賀裕二／制度論とその可能性：吉田和男／技術革新のダイナミズムと進化経済学：弘岡正明／文化システムと社会進化の経済学：池上惇

ネルソン氏、ウィット氏からのメッセージ：

From Prof. Richard Nelson

Thank you very much for your letter of August 13. I am delighted that the Japanese Association for Evolutionary Economics is doing well. Please keep me informed.

From Prof. Ulrich Witt

I am very much pleased to learn that my paper "Economics and Darwinism" is going to appear now in the proceedings volume of JAFEE's inaugural meeting.

It is a good news to hear that JAFEE is making good progress. In fact, the sheer size of the membership is astonishing - a wonderful success. JAFEE is perhaps now the largest association in the world devoted exclusively to the study of evolutionary phenomena in economics and economic evolution in general. As judged by the table of contents of your proceedings volume I think that JAFEE shows convincingly in this book a great potential of evolutionary thought.

I can only encourage you to go on this way, and wish you continued success in attracting creative thinkers into your association. Perhaps, our institute can make a little contribution to motivate young researchers to engage in the field by inviting post docs and doctoral students who are members of JAFEE, or working for members of JAFEE, to apply for a one-year scholarship in our institute. I would be happy, if you would advertise this opportunity in your association's circular (referring all interested people to our homepage <http://www.mpiew-jena.mpg.de> or instructing them to write directly to me.) ..

Thank you again for giving me the opportunity to participate in your wonderful inaugural meeting and to help attracting Japanese into our exciting field of research.